FCG LABO

vol. 33

2024.10

秋・冬号

冬のあったかメニュー　和風ビーフシチュー

- 商品開発をサポートします！ ～生活アイテム編（家電・雑貨）～
- 美術品文化財をカビから守るために ～くん煙剤の販売終了を踏まえた今後の対策 ～
- 料理レシピで紙面を華やかに ～料理レシピの撮影から貸出まで ～
- そうけんくん拝見 ～株式会社モンサンクレール～
- 2024年1～8月の月例会レポート ～フジサンケイ広報フォーラム～
- AI研修 ～情報システム室活動報告～
- コンプライアンス研修開催 ～経営管理部から～

FCG Research Institute, Inc.

株式会社 エフシージー総合研究所

商品開発をサポートします！

―生活アイテム編（家電・雑貨）―

生活・美容研究室　山田 雄太

需要が増えている空気清浄機をはじめ、生活に身近なさまざまな商品の性能評価をおこなっています。

なぜ評価試験が必要？ 景品表示法と試験の重要性

景品表示法とは、事業者が一般消費者に適切な商品情報を伝えることを義務付けた法律です。例えば、チラシやパンフレットなどの販促媒体に商品の性能効果を表示する場合、それを裏付ける試験データが必須。近年では、商品情報に関する根拠データが不十分ということで、同法令に抵触し、行政処分を受ける事例が少なくありません（図1）。

図1　景品表示法と商品表示

長年の実績から確かな試験データをご提供

当研究室では、日本電機工業会の規格試験（JEM1467家庭用空気清浄機）を長年にわたり実施。国内外から数多くの評価試験依頼の実績があります。脱臭、集じん、PM2.5除去性能などの評価が可能です（図2）。

図2　空気清浄機試験の様子

規格以外のオリジナル試験もご提案

評価基準が確認できない場合、試験を一からご提案することも可能。下図は水に流せるタイプのトイレクリーナーのほぐれやすさを検証した事例です（図3）。結果、早い段階で細かくほぐれるものがある一方で、大きな変化がないものも。このように実際に検証して改めて分かることもあります。この機会に弊社などの第三者機関に試験依頼し、商品評価プロセスの見直しを図ってみてはいかがでしょうか。

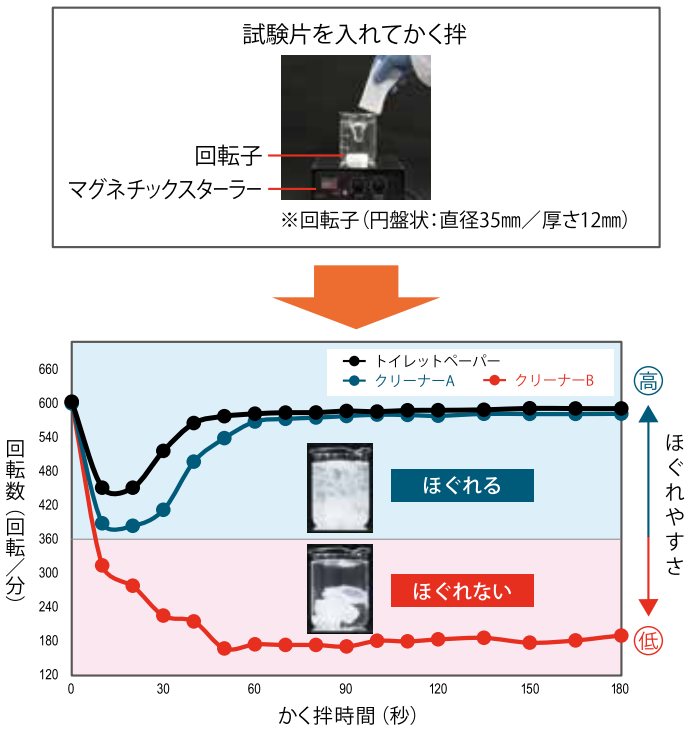


図3　オリジナル試験例（トイレクリーナー）

業務内容の詳細はこちら

美術品文化財をカビから守るために
―くん煙剤の販売終了を踏まえた今後の対策―

環境微生物研究室　小田 尚幸

カビや害虫に汚損された美術品や文化財は、汚染拡大や再発を防ぐために、くん蒸ガスを用いた殺虫・殺カビが必要です。しかし、美術品や文化財に悪影響を与えずに殺虫・殺カビが可能なくん蒸ガスは種類も限られ、その一つが2025年3月に販売終了となります。

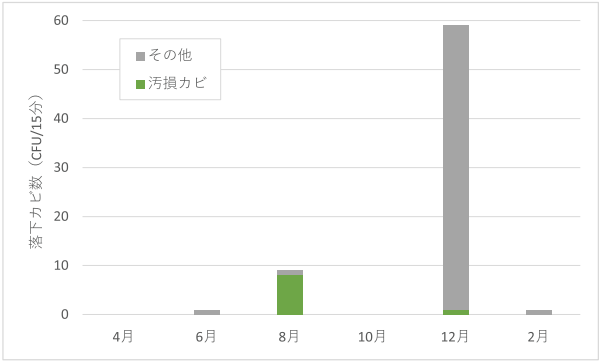
完全な代替品がない現状では、カビの発生を防ぐ環境管理がこれまで以上に重要です。定期的な検査でカビの存在や状況を把握することが不可欠であり、当研究室では、美術館や博物館の職員の方々が自主検査を実施できるよう支援しています。

カビの検査は、資材準備、検査結果の分析、適切な対策の策定などに専門知識が必要です。特に菌種同定が対策を立てる上で重要になります。カビの中には湿度65%程度から成長できる好乾性であり、紙素材や油彩画に褐色斑状の変色を引き起こす「汚損カビ」と呼ばれる種類がいます（下図）。本菌は展示品や収蔵品への直接的なリスクとなることから正確な菌種同定が重要です。

図　紙素材の褐色斑と主要原因菌

一方で、カビの採取自体は専門知識がなくても実施可能です。当研究室では検査サポートを提供しており、地方自治体や大学の美術館・博物館から長年ご利用いただき、高く評価されています。

ある地方自治体の美術館では空気中のカビや、物品・資材に付着しているカビを年6回検査しています。右のグラフは、展示室の空気中から15分間で落下してくるカビの採取結果です。8月と12月は他の月に比べて菌数が多いことが確認できます。



グラフ　2023年の展示室の落下カビ数の推移

8月には汚損カビが分離されており、付近に発生源があると推察されます。夏場は高湿度になりやすいため、貯留したホコリがカビの発生源となったと考えられます。清掃が行き届きにくい狭所の清掃強化を提案しました。12月には、その他のカビが多数分離されました。これは採取日に行われていた施設の工事の影響と示唆されました。

施設内の使用状況や天候は年によって異なり、様々な検査結果を分析し、適切な防除対策を提案しています。また、検査の継続は、より詳細なカビの状況把握に繋がり、有効な対策をとることが可能です。

当研究室では美術品文化財を未来へと繋げることを目標にカビ検査サポートや汚損した美術品文化財の修復などを提供し、10年以上にわたりIPM（総合的有害生物管理）の取り組みを支援しています。より詳細な検査レポートを当研究室のホームページでご覧いただけますので、ぜひご参照ください。

美術品・文化財の保護に関する情報については右のQRコードから弊社HPをご覧ください。

料理レシピで紙面を華やかに

―料理レシピの撮影から貸出まで―

食品料理研究室　小松 あき子

食品料理研究室は、産経新聞生活面の料理レシピ制作を長らく手がけてきました。料理レシピやキッチンのレンタル、オリジナルレシピ制作から撮影までのコーディネート、調理実験の実施など、食品や料理に関する業務を担っています。今回は料理レシピに関する業務についてご紹介します。

お客様だけの料理レシピ・写真をご提供

食品料理研究室では、HPや紙面に掲載できるレシピや写真素材をご提供いたします。

お客様がアピールしたい食材・素材を最大限に活かしたオリジナルレシピや、産経新聞に掲載したレシピを再現した料理写真のご提供も行っています。

オリジナルレシピは、経験豊富な料理家がお客様のためのレシピを制作します。レシピの他、HPやリーフレットなどに載せる料理写真の撮影は、お客様がお持ちのイメージや食材、料理の特長に合わせて撮影をいたします。その際は、プロスタイリストやプロカメラマンによる料理写真をご提供することも可能です。

その他、詳細はお問い合わせください。

弊社併設のキッチン
広々スペースで複数人での同時調理も。

＊お問い合わせやキッチン・スタジオのレンタルは、右記QRコードから弊社HPをご覧ください。

産経新聞料理レシピの制作に携わり30年　～掲載レシピのレンタルも

食品料理研究室では、30年以上にわたって産経新聞生活面料理記事の制作を担当しています。料理家と連携して作る綿密なレシピやプロによるスタイリング・料理写真は、読者の皆様に長らく支持され、大変好評です。

毎日の食卓が楽しく、飽きがこないよう、曜日ごとにテーマを決めてレシピを制作しています。今年度、火曜日は「備蓄食の活用術」として、ストック食材を活用し、金曜日は「世界のごはん」として、異文化に触れる食体験をご提案しています。

30年分のレシピは2万件以上となり、そのうち2万弱のレシピからお客様のご要望に合わせて、最適なレシピを貸出しています。また、掲載誌に合わせたレシピ文の調整や食材紹介記事、レシピのリード文作成も承っています。

※表紙・料理写真（撮影：柿崎 真子）は産経新聞に掲載されたオリジナルレシピです。

＊オリジナルレシピ制作とレシピ貸出については、右記QRコードから弊社HPをご覧ください。

魅惑のスイーツ創りをサポート

企画開発部　森 京介

株式会社 モンサンクレール

「食品大目付そうけんくん」（以下、「そうけんくん」）は、株式会社インフォマートが提供する「BtoB規格書」サービスと情報連携を進めています。連携機能を活用している株式会社モンサンクレール様にお話を伺いました。
（話し手：総務グループ・マネージャーの井上様、食品表示担当・品質管理グループの皆様／2024年8月取材）

御社のことを教えてください。

当社は、1998年に代表の辻口博啓（ひろのぶ）が自由が丘にオープンしたアトリエから歩み始めました。創業以来、素材へのこだわりを貫き、新たな技術や食文化を積極的に取り入れながら、時代の先端を行く洋菓子を提供してきました。お客様の暮らしに彩りを添えることを目指し、ブランディングにも力を入れています。洋菓子、和スイーツ、ショコラなど、多岐にわたる専門店を展開し、幅広く菓子事業を行っています。

辻口博啓氏の原点である
モンサンクレール

全国に10を超える
スイーツブランドを展開

「そうけんくん」導入のきっかけは何だったのですか？

自社販路に加え、大手百貨店との取引が本格化する中で、情報管理の重要性を強く感じるようになりました。システム化の検討を開始し、インフォマート社から「そうけんくん」を紹介されました。

これまで同社の「BtoB規格書」サービスを通じて仕入先から情報開示を受けていたため、その原材料データを「そうけんくん」に連携して取り込める点が、大きな魅力でした。

BtoB規格書とそうけんくんの連携が表示に活かされている

「そうけんくん」を導入して得られたメリットは？

一番のメリットは、業務の負担を大幅に軽減できたことです。以前は汎用ソフトのExcelを使って、食品表示を1点作成するのに2日かかっていました。現在では2時間に短縮でき、大変驚いています。

「そうけんくん」は、出力できる帳票のバリエーションも豊富なため、とても便利です。配合表や原価計算表、表示作成の根拠を出力し、統括管理者の承認を得てから表示をリリースしています。

また、取引先に向けた製品規格書の提出も迅速に対応できるようになり、顧客の信頼に繋がっていると実感しています。

「BtoB規格書」との連携機能はいかがですか？

原材料データの連携が簡単に行えるようになり、業務のストレスが大幅に軽減されました。これまでの資産を活かしながら、度重なる転記作業や数式の入力ミスから解放され、とても助かっています。

今後の活用展開をお聞かせください。

あと4年で創業30周年を迎えます。私たちが大切にしているのは、いかにお客様に喜んでもらえるかということです。「そうけんくん」に登録した情報を活用し、さらに一層の顧客満足を追求していきます。

2024年1～8月の月例会レポート

危機管理研究室　大島光博

企業・団体の広報担当者の情報交換・異業種交流の場「フジサンケイ広報フォーラム」では、毎月1回日本記者クラブでマスコミ関係者らを講師に招き、勉強会（月例会）を開催しています。今号では、今年1月から8月までの月例会での講演者のキーメッセージをお届けします。

1月月例会

「不祥事対応は広報に避けて通れない業務」

フジテレビジョン執行役員広報局長　上野陽一氏

不祥事対応は避けて通れない業務だ。私自身、ライブドア事件、ジャニーズ問題など様々直面してきた。その経験から「逃げない」「隠さない」「嘘をつかない」「丁寧な対応」「少しの心の余裕」という事を常に肝に銘じている。

2月月例会

「気持ちをつらくする考え方のクセをリセット」

ストレスマネジメント専門家　舟木彩乃氏

「自分は嫌われている」とネガティブな思考が浮かびがちな人は、「気持ちをつらくする考え方のクセ」を直すことが重要だ。

3月月例会

「中国のGDP統計を信じてはいけない」

産経新聞特別記者　田村秀男氏

中国経済はこの先も厳しい状況になるだろう。日本は円安基調で「悪い円安」論が喧伝されているが、円安により設備投資が進み、経済を支えているのが実態だ。賃上げが広がれば、個人消費も伸び経済は拡大軌道に乗るだろう。

4月月例会

「求められる皇室のタイムリーな情報発信」

フジテレビジョン解説委員　橋本寿史氏

宮内庁は皇室の活動を幅広く国民に知ってもらいたいと考えている。インスタグラムなど新たな取り組みを始めている。今後の課題はタイムリーな情報発信と中身の充実だと思われる。

5月月例会

「不祥事会見は何のため？」

経済ジャーナリスト　松崎隆司氏

不祥事会見で重要なことは、記者がうるさいので、とりあえず開くのは厳禁だ。その上で、自社・業界の常識は世間の非常識であることを再度認識する必要がある。

広報と記者は良好な関係を築くことが重要だ。

6月月例会

「創立150周年警視庁本部庁舎見学会」

警視庁総務部管理官　広報課課長代理　佐藤薫　警視

警視庁の解説映像を視聴後、映像通信指令センター、警察参考室を見学。特別に記者クラブと同じ階にある記者会見室で同庁第一広報担当の佐藤薫警視から広報体制などについて説明を受けました。

7月月例会

「世の中で一番嫌われるのは嘘と隠蔽」

産経新聞東京本社編集局社会部長　酒井潤氏

現代社会の中で今、一番嫌われていることは、嘘と隠蔽だ。不祥事で特に大切なのは、窓口と情報の一元化だ。官庁の広報体制などを参考にすると良い。

8月月例会

「内部告発と公益通報制度の盲点」

上智大学文学部新聞学科教授　奥山俊宏氏

兵庫県、鹿児島県警での内部告発では、保護されるべき通報者が大変な不利益を受けた。企業も内部告発への対応を誤ると事態が深刻化してしまう。ボタンの掛け違いには十分留意すべきだ。

情報システム室

AI研修

情報システム室　勝沼 毅

生成AIの技術革新が日進月歩の中で、弊社でもその活用を積極的に推進すべく、様々な取り組みを進めています。まず、知見のある社員が講師となって勉強会を開催しました。生成AIの具体的な活用事例として、「論文PDFの要約」「アンケート活用提案と集計」「アイディアだし」などを紹介しました。これらの事例を通して、生成AIが業務効率化や新たな価値創造に貢献できる可能性を示唆するとともに、機密情報の取り扱い、誤情報への対応など、利用にあたっての注意点についても共有しました。そして、更なる理解と活用促進のため、外部講師を招き、本格的な社員研修を企画しております。この研修では、生成AIの基礎知識から、具体的な業務への応用事例まで幅広く学ぶ機会を提供し、社員のスキルアップを図ります。

また、AIに関する社員の知識レベル向上を目的として、日本ディープラーニング協会が主催している「（Generative AI Test）生成AIに特化した知識や活用リテラシーの確認の為のミニテスト」、「（G検定-ジェネラリスト検定）ディープラーニングの基礎知識と事業活用能力を検定する資格試験」、「（E検定-エンジニア検定）ディープラーニングの理論の理解と開発実装能力を認定する資格試験」を社内の資格奨励制度に追加いたしました。これらの資格取得を奨励することで、社員がより正確な情報に基づいた提案を行い、AIを効果的に活用できる環境を整備してまいります。

生成AIの技術は日々進化しており、その活用範囲はますます広がることが予想されます。弊社では、今後も生成AIに関する情報収集と技術動向の把握に努め、社内における生成AIの活用をさらに推進してまいります。

（この文書は生成AI（Gemini）にて構成を行いました。）

経営管理部

コンプライアンス研修開催

経営管理部　阿由葉 光幸

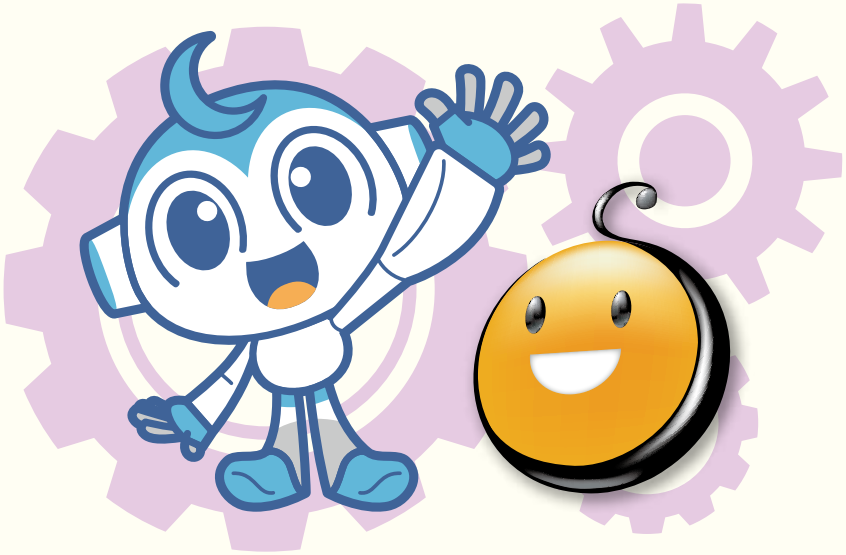
昨年11月、当社が所属するフジ・メディア・ホールディングスは、「グループ人権方針」を策定しました。グループ全従業員を対象とし、メディア分野を中心にステークホルダーを幅広くとらえ、より一層の人権を重視した経営を目指しています。

これまでもコンプライアンス遵守を重視した研究活動、サービス提供に努めてきましたが、「人権尊重」を明確にするため、本年2月に社内の「コンプライアンス行動指針」を改定し、顧問弁護士の協力を得て、全従業員参加、4部構成のコンプライアンス研修を5月に行いました。

第1部では、人権尊重の歴史から企業における人権リスクを学び、人権方針の重要性を理解しました。第2部では、ハラスメント対策や通報窓口などの社内体制を確認しました。第3部では、プライバシー情報や生成AIなどの新技術による人権リスクについて学び、業務との関連を把握しました。第4部では、マイノリティに対する差別問題を取り上げ、業務に無関係な属性に基づく差別の問題を理解しました。

全体を通じて、人権方針策定の意義を再認識しました。今後はグループと足並みをそろえて取り組んでまいります。

あなたが休憩中でも
そうけんくんは働きます



『そうけんくん』自動化 Robo派遣サービス

―『そうけんくん』の自動化で自由時間を手に入れよう ―

たとえば
規格書の仕分け／合否判定／チェック&完了報告／規格書取り込み …
時間のかかる業務を効率よくRoboが作業します。

リリース情報

■問い合わせ先
株式会社エフシージー総合研究所　企画開発部　森・高橋
TEL：03-6891-8507　MAIL：soukenkun@fcg-r.o.jp

※『Robo派遣』はユーザックシステム株式会社のサービスです

既刊「FCG LABO vol.29-32」はこちら
https://www.fcg-r.co.jp/company/ja/shiryo.html/#labo

ご依頼・お問い合わせはこちら
https://www.fcg-r.co.jp/contact/

FCG LABO
秋・冬号
vol. 33 | 2024.10

本紙記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

株式会社 エフシージー総合研究所
FCG Research Institute, Inc.
〒135-0064　東京都江東区青海１丁目１番20号 ダイバーシティ東京オフィスタワー６階
TEL：03-6891-8500（代表・経営管理部）
［発行］2024年10月25日　［発行人］岸本 一朗　［編集人］樋口 教行